



山車の土台に担い棒や四本柱を据え付け、練習を重ね、本番に備える若衆（7月15日）

米作り体験で地域の親睦も深まる

山犬原区で生産組合と子どもクラブが田植え

子どもたちに農業に親しんでほしいと、山犬原区で6月26日、生産組合と子どもクラブ合同の田植えがありました。

ふるさと「さが」水と土探検支援事業を活用したもので、約40人が参加。野口義光生産組合長はじめ生産者が、米作りの今昔や欠かせない川や水の大切さを教え、手植えを指導しました。

区民から集めた「鋤」や「千歯こぎ」など、昔の農具約30点を展示した倉庫では、その役割や使い方を説明。「トラクターと田植機で済ます作業が、昔は牛や馬の力を借り、手作業で多くの農具を使っていた」と聞いた子どもたちは、目を丸くしていました。

水田に入ると雨の中でも元気いっぱい、成富京子さん、小川春枝さん、野口澄子さんが唄う民謡『佐賀の田植え唄』を聞きながら、苗を植えました。初体験の子どもは「この苗がお米になるってすごい」と、父親は「今後の生長にも関心を持って、毎日の食卓でも話題にした。貴重な体験だった」と話し、地域の人との親睦も楽しみました。



▲野口生産組合長の水田で田植えを楽しむ参加者

8月15・16日は『多久山笠』に!!

『多久山笠』が今年も8月15・16の両日、夕方6時からJR多久駅周辺で行われます。

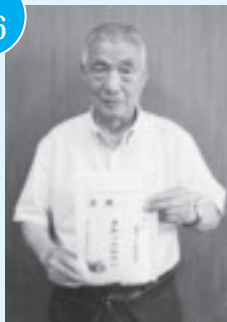
太鼓や鉦、笛の音色と「ヨイトサー、ヨイトサー」の掛け声を響かせながら、豪華な人形山や提灯山を曳いて練り歩き、フィナーレには約700発の花火が打ち上げられる多久市最大の夏祭り、毎年賑わいます。

この伝統行事を「若者で盛り上げよう」と提灯山の曳き手として活躍するのが、多久山笠若衆会。三角提灯山の復活にあわせ、多久を愛する若者で4年前に結成し、現在70人が所属しています。この三角と四角の提灯山2台の組み立て披露も美しく勇壮で、見ごたえがあり、感動もの。若衆会では本番に備え、山車の点検や組み立て練習を7月中旬から筋原公民館で行っており、仕事が終わった市民や市外からも市出身の若者が駆けつけます。「市民の祭りに!」と張り切る若衆会では、祭り好きなメンバーを募集中（連絡は☎090-9486-9177小川さんまで）です。

多久山笠委員会&多久山笠若衆会

原爆投下から65年 平和への願いを発信

多久市原爆被害者の会で発行されている会報には、身をもって被爆体験された方々や家族の苦しみが記されています。昭和50年5月、64人（現在26人）で設立以来、会長を務める瓦田一生さん（北多久町）は、「一人でも多くの人に被爆の実相を知らせ、平和の尊さ・大切さを発信させたい」と願い、多方面でこの体験を伝える活動に熱心。被爆者にかかる心配事や各種相談会（年2回）や原爆被爆者二世の方の健康診断（11月30日まで受付）への呼び掛けも行われています。



7/6

荒谷さん&山口さん LET'S ENJOY HOME STAY IN SYDNEY!!!

『ボブ・ホークスカラシッブ財団』がスポンサーのオーストラリア研修に決まった荒谷友貴さん（中央中3年）と、山口孔大朗さん（西溪中3年）に、招待状贈呈式が市役所であり、本人と家族が出席しました。荒谷さんは「ホームステイが楽しみ、視野を広げる好機」、山口君は「これを機会に世界中の人と友達になりたい」と決意表明。7月25日から8月22日まで約4週間の留学生活に、目を輝かせていました。



6/30